

＜小学校 学級経営＞

一人一人の活動意欲を育てる学級経営

ー 学級活動における集会活動の計画・実践を通してー

糸満市立高嶺小学校教諭 大城典子

目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究仮説	51
III	研究の全体構図	52
IV	研究内容	53
1	学級経営の内容・機能	53
2	意欲を育てる人間関係作り	53
(1)	意欲を育てるための教師の心構え	53
(2)	人間関係と意欲	53
①	人間関係の前提条件	53
②	よさを認め合う人間関係	54
③	本学級の人間関係の分析	54
3	特別活動と学級経営	55
(1)	特別活動の特質	55
(2)	学級活動の特質	56
(3)	集会活動の特質	56
V	授業実践	56
1	指導計画	56
2	本時の学習指導	57
3	実践資料	58
4	実践後の授業仮説についての分析	59
(1)	一人一人のよさを認め合う場の工夫	59
(2)	一人一人に目的意識・役割を持たせる工夫	60
VI	研究の成果と今後の課題	60
1	成果	60
2	今後の課題	60

＜小学校 学級経営＞

一人一人の活動意欲を育てる学級経営

－ 学級活動における集会活動の計画・実践を通して －

糸満市立高嶺小学校教諭 大城典子

I テーマ設定の理由

近年、科学技術や経済のめざましい発展によって社会状況は大きく変化してきている。このように、めまぐるしく変化する社会に対応するため、今日の学校教育においては、「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」が重視されている。その中の「意欲は」全教育活動を通して育てられなければならないものであるが、一日の教育活動の大半を展開していく場は学級であるので、学級経営の充実に努める必要がある。そのために教師と児童、児童相互の望ましい人間関係作りを心がけ、児童が自主的に協力的に取り組める活動、体験活動等を重視し、計画的に学級経営を進めていくことが大切である。

特別活動の目標に「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的態度を育てる。」と示されている。望ましい学級集団作り、意欲的な活動を促すために、特別活動の果たす役割は大きい。これまで、意欲的に活動する児童の育成をめざし、朝の会、帰りの会や、学級活動、学校行事などの特別活動の中で実践してきたことを振り返ってみると、

- (1) 朝の会、帰りの会では、曜日ごとに内容を変え、児童が楽しく主体的に取り組めるようにとその持ち方を工夫してきたが、しだいにマンネリ化し、活動に対する児童の意欲が薄れてきた。
- (2) 児童が喜ぶ集会活動を計画し、実践してきたが、発言力のある児童の意見で進められたり、教師中心に行われることが多かった。

アンケート調査からその原因として次のようなことが挙げられる。

- (1) 教師が児童一人一人を認め、児童がお互いを認め合う学級作りができなかった。
- (2) 教師の指示が多く、児童が主体的に活動するための手だてが不十分であった。
- (3) みんなで力を合わせて活動することの大切さを感じさせることが十分にできなかった。

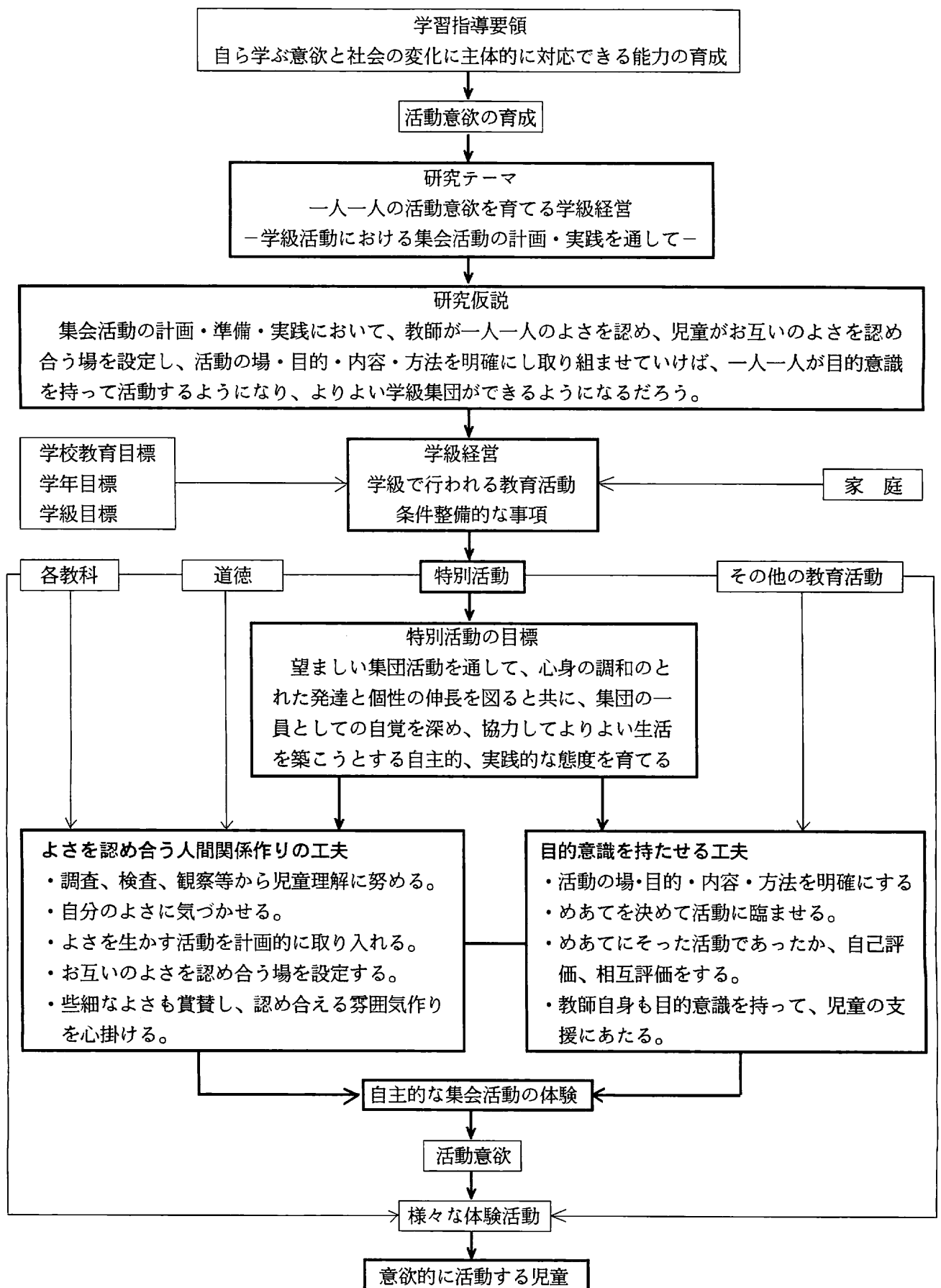
以上のことを改善するために教師は、児童一人一人のよさや可能性を生かし、みんなで協力し合って実現できるような活動を取り入れていくことや、児童が自主的に活動できるような手だてを工夫していくことが必要である。学級活動における集会活動は、計画・準備・実践の過程で、児童の希望や願いを盛り込み、児童の発想や創意工夫を発揮できる活動であり、児童全員が楽しくとり組み教師と児童、児童と児童との心の触れあいを深めることができる活動だという特質を持っている。従って、児童のよさや考えが生かされ、自分達で計画・準備・実践することが可能な活動であることから、児童が主体的に楽しく取り組める集会活動を体験させることは、望ましい人間関係作りや意欲を育てる上で、有効な働きをするものだと考える。

そこで、集会活動の計画・準備・実践の各段階で、一人一人のよさを認め合う場を設定し、一人一人が主体的に活動できるような手だてや支援をしていくことによって、意欲的に活動する児童が育つのではないかと考え本テーマを設定した。

II 研究仮説

集会活動の計画・準備・実践において、教師が一人一人のよさを認め、児童がお互いのよさを認め合う場を設定し、活動の場・目的・内容・方法を明確にし取り組ませていけば、目的意識をもち意欲をもって活動するようになり、よりよい学級集団ができるようになるだろう。

Ⅲ 研究の全体構造図



IV 研究内容

1 学級経営の内容・機能

『新しい学力観に立つ学級経営案の創造』の中で高階玲治は、学級経営とは、「学級で行われる教育活動と条件整備的な事項を含めて学級担任の仕事を幅広く考えたもの」と述べている。学級経営の内容・機能については、下記のように示されている。

(1) 基本的事項

学級目標の設定、児童の実態把握、学級経営計画の作成、学級の諸活動・係活動の組織、学級経営の評価と改善など。

(2) 指導領域的事項

学級における教科・道徳・特別活動の効果的な指導・運営、日常生活の指導など。

(3) 個と集団指導的事項

集団内における個の把握と援助、教師と人間関係、学級集団作り、生徒指導、教育相談など

(4) 経営条件的事項

教室設営、学級事務、学校・学年経営との連携、保護者・地域との連携・協力など。

(5) 重点的事項

その学級で特に力を入れている内容、あるいは特色ある活動など。

すべての活動における教師の関わり方によって児童の活動意欲に与える影響が大きいことから一年間を見通して、学級経営計画を作成し、細かな配慮をしながら実践していく必要がある。教師はさらに、学級で行われる教育活動、条件整備に関して、目標を持ちそれに基づいた計画・実践・評価を繰り返しながら学級経営に当たることが大切である。

2 意欲を育てる人間関係作り

(1) 意欲を育てるための教師の心構え

児童は、学級を中心にした全教育活動を通して多くのことを学んでいる。その活動が教師の意図的計画的なものであることから教師の児童一人一人への関わり方が個々の意欲を育てるのに大きな影響を与える。児童が意欲的に活動するための教師の心構えについて『個のよさを生かす学級経営の技術』を参考に下記のようにまとめた。

教師の心構え

- ・一人一人の児童の理解に努め、よさ、個性を認め生かしていくことを心掛ける。
- ・児童のおもいを大事にし生かす工夫をする。
- ・児童の目の高さで考え受容的態度・肯定的態度で接する。
- ・児童の気持ちを共感的に受けとめる。
- ・個に応じた援助・指導を心掛ける。
- ・児童の発言を大事にし、安心して自分の考えが言える雰囲気作りに努める。
- ・児童が主体的に活動できるような援助・指導を心掛ける。
- ・児童に接する場では、前向きに、心に響くように話すことを心掛ける。
- ・望ましい人間関係作りに努める。
- ・一人一人に役割を持たせ活動の場を与えるようにする。
- ・体験活動を重視する。

(2) 人間関係と意欲

① 人間関係の前提条件

人間関係の形成と維持が上手にできるための条件を相川充は『初等教育資料平成8年2月号』の中で次のように述べている。

- ・人間関係について基本的な知識を有していなければならない。
- ・相手の思考と感情を理解できることである。

- ・自分の思考と感情を相手に伝えられること。
- ・人間関係の問題を解決する能力があること。

以上のようなことを従来は、家庭・地域・友達・先生との関わりを通して自然に学んできた。ところが、家庭生活の変化、少子化傾向、地域・友達・教師との関わり方の変化とめまぐるしく変わりつつある社会の中であって、体験を通して自然に人間関係を学ぶということが困難になってきている。

一日の大半を学級の中で過ごしている児童のことを考えると人間関係作りのために学級におけるあらゆる活動の体験を通して、指導・教育を行うことが必要だと痛感している。そのためには、お互いに自分のよさ、相手のよさに気づき認め合う活動を取り入れる必要がある。

② よさを認め合う人間関係

学級担任は、人的環境の一つとして、認め合う人間関係を築くことに努める必要がある。学級における人間関係は、児童の学習、生活に大きな影響を及ぼすことになる。学級経営において、教師と児童、児童同志の人間関係が、望ましい関係にあるように配慮していくことが必要である。望ましい関係にあるということは、認め合える関係にあるということである。一人一人が認められる人間関係づくりをするということは、一人一人が個性を発揮し、その存在が認められるようにしていくことである。そのためには、児童のよさを生かすことを念頭に組み込んでいくことが大切である。よさが生かされている学級においては、下記のようなことが見られる。

- ・教師や友だちが認めてくれているという信頼感に満ち生き生きとしている。
- ・自分のよさを進んで発揮しようとする。
- ・自分のよさが生かされていることを自覚できる。
- ・学級の一員として自覚をして行動することができる。

このような学級にするためには、以下のような工夫をしていく必要がある。

- ・児童のよさを生かせる活動を計画する。
- ・楽しくできるような活動を取り入れ触れあう機会を多く持つ。
- ・友達のよい考えや行動を認め合える場を設定する。
- ・一人一人に役割を与え活動させる。
- ・みんなで協力し合い助け合ってできるような活動を取り入れる。

上記のようなことを考慮にいれて学級経営を心掛け、認め合う人間関係を築くことによって活動意欲も育っていくのである。

学校生活のあらゆる場で、児童に多様な活動の場を体験させることが必要である。そこでよさを認められることは、自信につながると共に喜びを味わうことにもなる。そうした体験を繰り返すことによって自分のよさに気づくことにもなる。さらに、よさを伸ばそうと意欲的に活動することになるのである。

③ 本学級の人間関係の分析

学級の人間関係について、また、一人一人の児童を理解するために『教研式田中ソシオメトリックテスト』『教研式POEM』の検査を4月に実施した。

＜学級集団全体について＞

ソシオメトリックテストの結果を見ると、同性間の選択が多く異性間で排斥が多い。調査の結果から、第1下位集団（女7名）、第2下位集団（男5名女1名）、第3下位集団（男6名）、第4下位集団（女3名）、第5下位集団（女2名）となっていることから男子は、2つのグループ、女子は3つのグループに分かれていることが分かる。また、男子2名女子1名の孤立児（誰からも選択されない人）がおり、女子2名の周辺児（相互選択のない子）がいる。以上のような結果から男女間で排斥し合っていること、集団としてのまとまりに欠けていることがわかる。

＜特に問題になる児童について＞

周辺児、孤立児についてPOEMの結果を次のようにまとめてみた。（表1）

表1 POEMの結果 ③：適応 過：過剰適応 不：不適応

児童 (判定)	受容感	効力感	セルフ コントロール	不安化 傾向	対人 積極性	向社 会性	攻撃性	診 断 結 果
K 君 (孤立児)	③	不	③	③	③	不	③	・適度な受容感がある。 ・無力感が強い。 ・他人の心情や立場が理解できず、自分勝手な行動をする。
C 君 (孤立児)	不	過	③	過	過	過	③	・周囲から疎外されていると感じている。 ・他人に対して支配的で傲慢な態度が強い。
Yさん (周辺児)	不	不	③	不	不	③	③	・無力感が強く、やる気があまり見られない。 ・周囲から疎外されていると感じている。
Iさん (周辺児)	③	③	過	③	③	過	③	・適度な受容感がある。 ・意欲が低く消極的。 ・自分の欲求を抑える傾向が強い。
Sさん (孤立児)	過	過	③	③	③	過	過	・意欲が強く物事に集中できる。 ・他人に対して支配的で自分の考えを押し通そうとすることがある。

＜分析と考察＞

Kは他人の心情や立場が理解できず自分勝手な行動をすると出ており、感情的になり暴力を振るうこともある。そのため皆から恐がられ孤立している。Kに対して温かく接し認めていくように心掛け、精神の安定を図りたい。CとSは、自分の能力や周囲への影響を過言している傾向があり他人に対して支配的で傲慢な態度をとるため孤立児という結果になっている。意欲もあり積極さもあるのでその良さを生かす活動の場を与え自分の行動を反省させながら取り組ませていきたい。Yは、周囲から疎外されていると感じているし、無力感も感じている。Yを選択している子が1人いるので意図的に関わらせていきたい。Iは、自分の欲求を抑えるため無感動で冷淡な感じを与えている。Iの考えを引き出すように、受容的に接していくことが必要である。

学級全体の人間関係は、男女間で排斥の多いこと、いくつかのグループに分かれていることから、望ましい関係ではないといえる。仲間意識を育てよい人間関係を作るには、男女が仲良くすることが楽しい学級作りに欠かせないこと、一人一人が学級の一員として大切な存在であることを認識させる必要がある。そのためには学級全員で取り組めるような活動を計画し、お互いを認め合い、協力し合うことの大切さを体験を通して学ばせることが大切である。その際、諸検査・調査・観察をもとに児童を理解し一人一人のよさを生かしつつ望ましい人間関係作りに努める必要がある。意欲を育てるためにもよき人間関係作りを念頭において、学級経営をすることである。

3 特別活動と学級経営

特別活動・学級活動・集会活動と学級経営の関わりについてそれぞれ特質から下記のようにまとめた。

(1) 特別活動の特質

- ・集会活動を通した実践的な活動
- ・学級の枠を越えた学年・学校全体としての活動
- ・自主的・実践的な活動

『小学校特別活動指導資料』（文部省）

「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図る」ことが重視されている今日上記のような特質を持つ特別活動を充実させることが重要である。「望ましい集団活動を通して」という目標は、特別活動のみであることから、望ましい人間関係の育成に特別活動の果たす役割が、大であることが分かる。学級経営においても、望ましい人間関係を深めていくために担任の細かな計画に基づく実践が要求される。

(2) 学級活動の特質

- ・学級を単位とした集団活動
- ・児童による自主的、実践的な活動

- ・他の仲間と交流を深め、自分を理解し、仲間を理解していく。
 - ・集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。
- 『新しい学級活動の実際』 (東洋館出版社)

学級活動は、特別活動の内容のうち、学級経営との関わりが深く一体的なものであることが分かる。児童の実践活動を通し、豊かな人間形成を育成することは、両者共に重要である。両者が相互に関連し合うことによって効果も高まってくるのである。

(3) 集会活動の特質

- ・児童全員が参加し、楽しく充実した生活を送るための活動が展開できる。
- ・児童の希望や願いを実施計画に盛り込み、その実現を図る一連の活動を通して児童自身に組織的な活動を運営する能力を身につけさせることのできる活動である。
- ・集会活動のめあて、内容、方法などを決めるとき、児童の活発な話し合いができ、児童に集団の一員としての自覚を高めさせることができる。
- ・児童が活動の過程で、自分達の発想や創意工夫をより多く発揮できる活動である。また活動を通して児童相互の交渉も意欲的に進められることが多く、友だちと協力し合うことによって連帯感に浸ることができる。
- ・活動を通し、教師と児童、児童相互の心のふれあいを深めることができるとともに一人一人の個性や特性を大切にすることができる。

集会活動は、楽しく充実した学級生活を送るために、学級の児童全員が主体的に実践していく活動である。共通の目標に向かい協力し合い助け合って活動していくことで、お互いを見直し、よさを認め合って、よりよい学級を築こうとする意欲も高まる。集会活動の体験を通して築かれた認め合う人間関係、意欲は、学級経営を進める際に大いに役立つものである。

上記の認識の上に立って、活動意欲を高めるための学級活動の計画・実践を次のように進めてみた。

V 授業実践

1 指導計画

月・日	学 習 活 動	活動の場	教 師 の 支 援
6 / 1	1. 人はそれぞれよさを持っていることに気づかせる。 2. 自分のよさを見つける	道徳	○人にはよい面と悪い面があり、だれでもよい面があることに気づかせる。
6 / 4	1. 学級会の打ち合わせ (司会、副司会、記録) 学級会での司会のしかた、記録について知り、練習する。	放課後	○「話し合いの進め方」のプリントをもとに話し合い、練習をさせる。
6 / 5	1. 「なかよし会」のねらいを知る。 (学級カードの利用) 2. 議題について、自分の考えを書く。	学級活動 (実施計画作り)	○楽しく仲良くすることがねらいであることを知らせる。 ○例を示し、自分の考えが出しやすいようにする。
6 / 7	1. 「なかよし会をしよう」という題で話し合う。 ＜話し合いの柱＞ ・どんなことをするか。 ・どんな係が必要か。 2. 決まったことの発表をする 3. がんばった人の発表をする 4. 先生の話 5. 活動カードに反省を書く	学級活動 (話し合い活動)	○話し合いのめあてを確認させる。 ○良さを発表し合うことが中心であることを知らせる。楽しくするために更に工夫すべきことはないか考えさせる。 ○がんばった人へみんなで、はく手し良さを認めさせる。
6 / 11	1. グループの中でそれぞれがだれのよさを見つけ、発表するのか話し合う。	放課後	○話し合いのうまくいかないグループには教師も参加し、話し合いの手助けをする。
6 / 12 ～	1. 友だちのよさをさがす	登校から 下校する まで観察 する	○よさを見つけるため ①一緒に遊んだり話したりすること ②仲良くすること ③相手をよく見ること

6/14			④やさしい目で見ること 等を心がけさせる。
6/15	1. 友だちのよさをカードに書く。	朝の自習 や朝の会	○教師が例文を読んで紹介する。どんなところを見て友だちのよさを見つけたのかわかるように書くことを知らせる。
6/18	1. 「よいところ見つけたよ」カードに清書する。	書き方 (15分)	○友だちへのことばのプレゼントであるので、心をこめて、ていねいに書くように促す。
6/18	1. 「なかよし会」の練習についてグループで話し合う。 ①リーダーを決める ②めあてを決める	放課後	○練習がスムーズにできるように、めあてを考えることを知らせる。
6/19 ～ 6/24	1. 各グループで準備する。 2. 各係の準備	朝の自習 図工 (1時間) 放課後	○児童のアイデアが生かせるようなアドバイスをする。
6/25	1. はじめのことば 2. 学級のうた 3. 集会のめあて発表 4. 「よいところ」発表 1～7グループ 5. ゲーム 6. よかったこと発表 7. 先生の話 8. 終わりのあいさつ	学級活動 (集会活動) (本時)	○各係、グループの発表でつまづく時、援助をしてあげる。 ○聞くときは静かに、終わった時は拍手をすることが話す人への思いやりであることを知らせる。 ○一人一人のがんばりをほめ、次の活動への意欲づけを図る。
6/26	1. 反省カードをもとに自己反省をする。 2. よかったことを発表しあう 3. 先生の話	学級活動 (話し合い活動)	○項目について説明してから記入させる。 ○一人一人のがんばりをほめ、次の活動への意欲づけを図る。

2 本時の学習指導 *「なかよし会」という題材で話し合いをし実践してきた。

(1) 題材名 『なかよし会』 (集会活動)

(2) 本時の指導目標

ア 友だちのよさに関心をもち発表を聞くことができる。

イ 一人一人が役割を意識し、楽しく活動することができる。

(3) 授業の仮説

ア 友だちのよさを発表しあう集会活動をすることによって、一人一人のよさに気づき関心をもつようになるであろう。

イ 目的意識や一人一人が役割をもったグループ、係活動をすることによって、学級の一員であるという自覚をもち、みんなで協力して楽しく活動していこうとする意欲が見られるようになるであろう。

(4) 展開

過程	活動の内容	時	指導・援助の留意点	準備・資料
共有化	1. 始めのことば 2. 歌 「2年3組の歌」 3. 集会のめあて発表	5分	・元気よくあいさつさせる。 ・自分たちで作った歌という意識をもち明るい声で歌わせる。 ・めあてを掲示し楽しい集会にしようとする意欲をもたせる。	・カセットテープ ・「めあて」を書いた紙
活動の展開	4. 友だちのよさの発表 1グループ ↓ 7グループ 5. ゲーム	30分	・どんなよさがあるのか知るために、静かに聞かせるようにする。 ・終わったら拍手をしてあげる。 ・必要に応じて助言援助を行う。 ・きまりをまもり、楽しくできるようにさせる。	・「よいところを見つけたよ」カード
意欲化	6. よかったこと発表 7. 先生のはなし 8. 終わりのことば	10分	・よかったこと、がんばった人の発表をさせる。 ・実践への意欲を高まる話をする。 ・元気よくあいさつをさせる。	

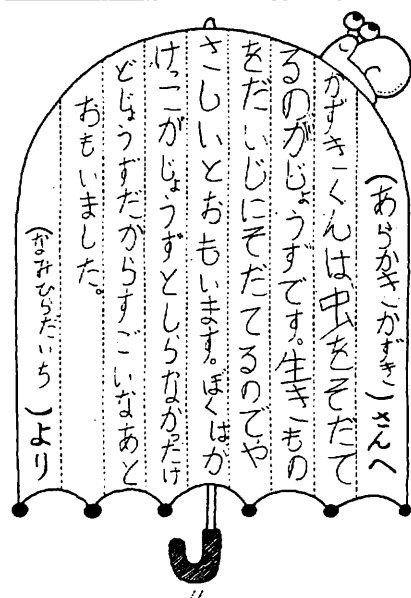
(5) 評価

- 友だちの発表をしっかりと聞くことができたか。
- 役割を意識し、楽しく活動することができたか。

3 実践資料

学さやうかつとうカード		二年三組(しんぞとかなつ)		六月七日(金)	
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう
かかり	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう	なかよし会をしよう

よいところ見つけたよ



ぼくのわたしの



よいところ

2年3組 ぐしけん まさつね

じぶんのよいところをかきましょう。

おそうじを、いっしょうけんめいやるところがよいところ。

うちの人からみたよいところ

お友だちの気持ちを考え やさしくことばをかけることができます。好きなことにはとことんまわうちになります。とくに おしゃどろびつなことなどには、くわしくきょうみをもって するとくかんさつしています。

「なかよしかい」はんせいカード



2年3組(玉城 ゆかり)

① たのしくできたか。	できた	ふつう	できなかった
② はひまりをしかり聞いたか。	聞いた	ふつう	聞けなかった
③ はひまりを かんはったか。	かんはった	ふつう	かんはれなかった
④ かかりのじごとをかんはったか。	かんはった	ふつう	かんはれなかった

・かんそくを かきましよう。

ともだちのよいところを聞いて
人々にはいろいろなよいところがあるんだなと思って
いいなと思いました。

かかりの しごとをして
しかりは、たいへんだったけれど
おわたあで 先生に
「じょうずだったね。」といわれ
てうれしかったです。

4 実践後の授業仮説についての分析と考察

(1) 一人一人のよさを認めあう場の工夫

教師と児童、児童と児童の人間関係が、望ましい状態にあるとき意欲は、高まる。望ましい人間関係作りをするためには、一人一人のよさをお互いが気づき認め合う場を設定することが必要である。そこで、まず、道徳の時間を活用し、人はみなそれぞれにより面があることに気づかせ、自分のよさを見つける意識づけをした。次に、家族に子どものよさを見つけてもらった。一人一人のよさをみんなに気づかせるために自分で見つけたよさ、家族に見つけてもらったよさの書かれたカードを学級に掲示したらうれしそうに興味深く読んでいた。それから、生活グループの人間関係を意識させるためのペアをつくり、お互いのよさを見つける活動に発展させた。そこで、児童が友達のよさをどのようにして見つけたらよいか分かるように、次のような視点を設けた。

- ・一緒に遊んだり話したりすること。
- ・仲良くすること。
- ・相手をよくみること。
- ・やさしい目でみること。

三日間の観察の後、友達のよさをカードに文章化させたが、一人一人が取り組めるように例文を示してあげた。自分のよさをカードいっぱいに書いている子に刺激されて自分もできるだけ友達のよさを見つけて書いてあげようと意欲的に取り組んでいた。個別指導の必要な子には、教師との話し合いを通して文章化させていった。「よいところ見つけたよカード」を発表し、みんなに知らせる場を設けた。そのために、教師の提案により「なかよし会」（集会活動）を計画した。その話し合い活動において、友達のよさを発表する場を与えた。「Aさんは、よく発表していました。」「Bさんは、よく話を聞いていました。」「きょうは、みんながんばっていたと思います。」「司会のC君とDさんは、とても上手でした。」等、多くの人が、よさを見つけて発表していた。グループ練習や準備の際には、その子なりに頑張っていることを認め賞賛してあげた。特に意欲のない子には、一緒に活動できるように援助をし、少しの頑張りでも大いに誉めた。誉められたことで喜びが増し意欲的に活動するようになった。一人一人のよさを発表し、よさを認め合う楽しい場を意図する「なかよし会」を児童と共に計画し、実践した。

<よさを認め生かした事例>

C君（55ページ表1参照）は、物おじせず発言力もありリーダーとして活躍できる子である。ところが、負けず嫌いで友達を認めることがなかなかできず些細なことで言い争いをしたり、意地悪をしたりするので学級では、仲間からあまり好ましく思われていない。そこで、C君に「なかよし会」のねらいを意識させると同時に、司会を体験させることは、リーダー性を育てる上からも協力心を促すことから望ましいことだと考え、意図的に話し合い活動の司会者にした。C君は司会者選ばれたことから認められた喜びを感じ、友達の発言にもうなずきながらはりきって話し合いを進めていた。二人の子が「司会のC君は、よくがんばっていました。」と評価し発表してくれたので大役をはたした満足感を味わっていた。「なかよし会」へ向けての役割分担でも、積極的に司会の仕事を選び、意欲的に練習するようになった。

登校拒否気味で授業中ほとんど学習に参加しようとしなかったE子さんは、友だちとの関わりは好まず一人で過ごすことの多い子であった。そのE子さんの折った作品を見て手先の器用さを認めそのよさを生かすために、プログラムの係りに推薦したら本人がとても喜び周りも賛成してくれた。教師からも友達からも認められたことで、プログラム作りの時は協力しながら意欲的に取り組むようになった。できあがったものを見てみんなに喜ばれたことで、「なかよし会」への参加意識が高まった。これまで、集団の中に入らず、そばで見ている状態であったが当日は、グループの友だちと一緒にすわって参加できた。みんなと一緒に取り組んできたことで自然に仲間入りすることができた。

C君とE子さんの例を通して、よさを認め生かす活動を工夫して取り入れることによって意欲的な活動も促されてくることが分かった。

(2) 一人一人に目的意識・役割をもたせる工夫

児童のアイデアを生かし自主的な活動が可能な集会活動は、最も楽しい教育活動である。低学年であることを考慮し、教師が意図的に目的に合った内容を設定し、計画・立案を進めるが、児童一人一人の思いや願い、アイデアを取り入れて主体的な活動ができるように援助をした。一人一人が自主的に活動できるようにするために、計画・準備・実践の過程で、目的意識を持たせる工夫と、一人一人に役割を持たせる活動の工夫を試みた。

児童一人一人に目的意識を持たせるために、話し合い、グループ練習、準備、実践等では、まず教師が目的・内容を説明しめあてを考えさせて活動させた。グループ練習のめあても「まじめに練習する」「教え合いながら練習する」「仲良く練習できるようにする」など自分達で決め、意識しながら活動するようになった。グループ活動のうまくできない子には教師から指示・強制はせずに活動しない理由を聞き援助をしてあげることでグループに加わり協力するようになった。

児童一人一人が学級の一員であるという自覚を持ち意欲的に取り組めるようにするため、一人一人に役割を与えた。グループ練習に向けてまず、それぞれの係りを決めさせた。リーダー、始めのあいさつ、終わりのあいさつ、発表原稿の配布、回収とどの子も係りを受け持つことで、自分の仕事だと意識し意欲的に活動する児童が増えてきた。準備における役割分担は意欲的な活動を促すために児童の希望する係りを選択させた。また前ページにも述べたように話し合い活動で意図的に司会を体験させたC君は積極的に司会の仕事を引き受けた。練習の際には、三人で分担を決めて協力し合っていた。そのことを大いに賞賛したら本時では自信を持ち、楽しみながら一生懸命司会の仕事を務めていた。C君の時のように一人一人が意欲的に活動できるように係りの仕事の手順を説明し、その後は自分たちのアイデアで工夫しながら取り組めるように援助した。活動の様子をチェックすることでどの児童でも活動できるように支援していった。反省カードの結果は、係りの仕事をがんばった人25名、普通6名、がんばれなかった0名であった。係りの仕事をしての感想に「楽しくできた」「なかよくがんばった」「おもしろかった」というのが多かった。一人一人に役割を与えたことでどの児童も意欲的に取り組むことができた。

VI 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 学級経営の捉え方、特別活動との関わりについて理論研究したことにより理解が深まり教師の役割を見直すことができた。
- (2) 集会活動実践に向けての係り活動や、グループ練習を通して、児童のアイディア可能性のすばらしさに関心すると共に児童にまかせ見守ることの大切さが分かった。
- (3) 綿密な計画の基に「なかよしかい」に取り組んだため、児童が目的意識を持つようになった。そのため、自分達で作上げていく意識が高まり意欲的に活動するようになった。
- (4) 自分や友だちの良さを見つける活動を通して、一人一人の良さに関心を持つようになってきた。
- (5) 教師や友だちが認めたり賞賛することは、意欲づけになるとともに、友だちを認めようとする相乗効果も現れ望ましい人間関係づくりに役立つことが分かった。

2 今後の課題

- (1) 日常の学級生活での児童の興味関心や集団行動における問題点などの実態を把握し、それらを学級経営の中に生かし意欲に結びつけるような指導に努めたい。
- (2) 児童理解に努め、一人一人が生かされる集団活動の体験を通し、孤立児、周辺児、登校拒否児の集団への適応を図り、よりよい人間関係づくりに努めたい。
- (3) 各教科、道徳、その他の政育活動においても意欲づけを図るような指導の工夫をしていきたい。

<主な参考文献>

新しい学級経営臨時増刊号No117
伴 貞男・青山啓子 編著
吉本二郎・永岡 順 編集
大串正弘 他著
文部省 編集

『新しい学力観に立つ学級経営の創造』
『なかよく楽しい学級活動＜1・2年＞』
『現代学校教育全集 学年・学級経営』
『個のよさを生かす学級経営の技術 小学2年』
『初等教育資料 No645 平成8年2月号』

明治図書 1995年
東洋館出版社 1994年
ぎょうせい 1980年
明治図書 1993年
東洋館出版社 1996年